

公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

ソフトボール

2024年/令和6年
第477号

10月号
(毎月1回10日発行)

編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square

T E L . 03-5843-0480 F A X . 03-5843-0485

編集部 ㈱日本体育社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501

T E L . 03-3811-6911 F A X . 03-3811-6290



初代・皇后盃の 「栄誉」に…

皇后盃 第76回全日本総合女子選手権大会 (2024.9.14~16/滋賀県守山市 他)

C o n t e n t s

・男子TOP日本代表レポート……………2	・第29回全日本レディース大会……………26
・第46回全国中学校男子・女子大会……………4	・第21回全日本一般男子大会……………28
・第59回全日本大学男子選手権大会……………8	・大会を支えてくださる皆さんに「感謝」……………30
・第59回全日本大学女子選手権大会……………10	・令和6年度第6回理事会議事録……………34
・皇后盃 第76回全日本総合女子選手権大会……………12	・事務局だより……………38
・ニトリ JD.LEAGUE 2024 第9節……………14	
・第57回日本女子リーグ第3節……………18	
・第53回日本男子リーグ第3節……………22	

●第18回男子ワールドカップ● 「グループステージ」グループC

日本、第2代表の権利を獲得。 来年のファイナルステージへ！

去る9月17日（火）～21日（土）、アメリカ・オクラホマシティにおいて「第18回男子ワールドカップグループステージ」（グループC）が開催され、男子TOP日本代表が出場。

大会には、ホスト国・アメリカ（7位）をはじめ、コロンビア（17位）、グアテマラ（13位）、日本（4位）、オランダ（19位）、南アフリカ（18位）の6チームが出場（※（ ）内順位は大会開催時点の世界ランキング）。



新生・男子TOP日本代表が「ワールドカップ グループステージ」に挑んだ

出場6チームでまずシングルラウンドロビン方式（1回総当たりのリーグ戦）の「オープニングラウンド」を実施。その順位に基づき、「オープニングラウンド」3位・4位のチーム、1位・2位のチームが「順位決定プレレオフ」を行い、1位・2位戦の勝者が「第1代表」として「ファイナルステージ出場権」を獲得。続いて1位・2位戦の敗者と3位・4位戦の勝者が対戦し、勝者が「第2代表」として「ファイナルステージ出場権」を獲得する試合方式で実施された。

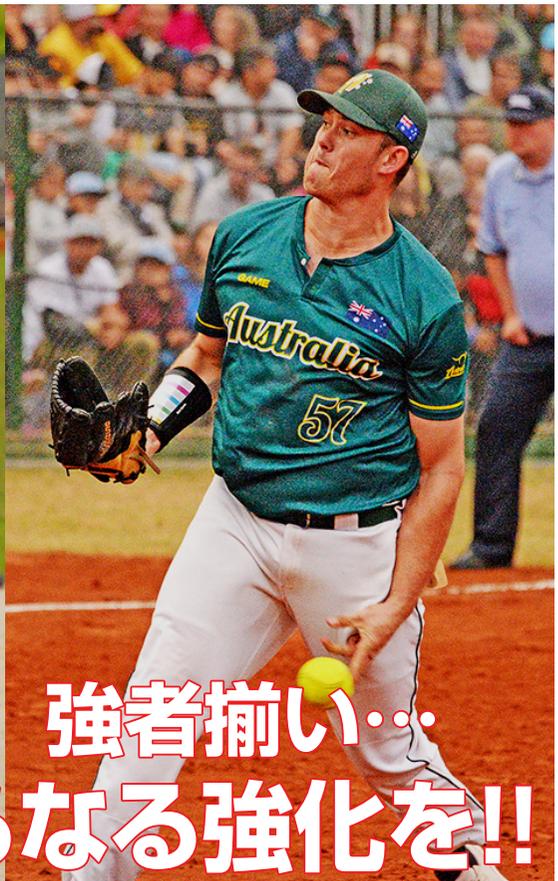
男子TOP日本代表はオープニングラウンド第1戦・オランダ戦に9-0（6回コールド）、第2戦・南アフリカ戦にも9-0（5回コールド）と2試合連続のコールド勝ち。第3戦・アメリカ戦は5-9で落としたが、第4戦・グアテマラ戦に4-0、第5戦・コロンビア戦に8-1（5回コールド）と再び連勝。オープニングラウンド4勝1敗「アメリカに次ぐ2位」で順位決定プレレオフへ駒を進めた。

順位決定プレレオフ、アメリカとの1位・2位戦（第1代表決定戦）は地元開催で意気上がる「前回のワールドカップ第3位の強豪」アメリカ打線が初回いきなり日本に襲い掛かり……大量9点を奪う「衝撃」の試合展開に。最終的に10-0（4回コールド）と日本

を一蹴し、「第1代表」の座をつかみ、完敗を喫した日本はコロンビアとの3位・4位戦を勝ち上がったグアテマラと運命の最終戦／第2代表決定戦へ。絶対に負けられない。そのグアテマラ戦では、「エース」池田空生が「意地」の力投！打線も4回裏に代打・佐藤光希の値千金のスリーランホームランでリードを奪い、そのまま逃げ切り、3-0の完封勝利で無事何とか「第2代表」の権利を獲得。来年（2025年）カナダ・プリンスアルバートで開催される「ファイナルステージ」への「切符」を手に入れた。

これでグループA・B・Cすべての戦いが終了し、「第18回男子ワールドカップファイナルステージ」へ出場する8チーム（※アルゼンチン（1位）、オーストラリア（2位）、日本（3位）、カナダ（4位）、ベネズエラ（5位）、アメリカ（6位）、ニュージーランド（8位）、ドミニカ（11位）の合計8チームが進出）が確定。

今大会「無敗」の強さを見せつけたアメリカはもろろんのこと、世界の頂点を競う舞台は強者揃い。男子TOP日本代表のさらなる強化は当然のことながら、今回の戦いぶりをチームとしてどのように振り返り、「次」につなげていけるかが……非常に重要である。



世界は広く、強者揃い…
男子TOP日本代表のさらなる強化を!!



男子TOP日本代表選手プロフィール
大会結果の詳細・日本戦レポートは
日本協会オフィシャルサイトで!

第46回全国中学校男子・女子大会

令和6年8月18日（日）～20日（火） 富山県富山市／富山県岩瀬スポーツ公園、富山市東富山運動広場
記録提供：富山県協会記録委員会



○男子の部○

愛媛ジュニアソフトボールクラブ（愛媛）

初の栄冠をつかむ



○女子の部○

東海大学菅生高等学校中等部（東京）

初優勝を飾る

● 本大会は8月18日（日）～20日（火）の3日間にわたり、富山県富山市を舞台に開催された。チーム数の減少により2027年度から、この「全国中学校大会」の種目としては実施されないことが決まった「男子の部」は全国から16チームが出場。初日（18日／日）に1回戦6試合を行い、2日目（19日／月）は1回戦の2試合と準々決勝の4試合を行う予定であったが、準々決勝の1試合が雷雨の影響により延長8回裏途中で中断。サスペンデッドゲームとなり、最終日（20日／火）にそのサスペンデッドゲームと準決勝、決勝を行い、無事に大会を終了することができた。

● 「女子の部」には28チームが出場。初日に1回戦12試合、2日目に2回戦8試合と準々決勝4試合、最終日に準決勝、決勝の3試合を実施し、全日程を終了した。

【準決勝】 鹿児島SC(鹿児島) 2-7 四万十町立窪川・大正中学校(高知)

先攻の鹿児島SCは初回、一死から2番・清水洋佑の安打、盗塁で得点圏に走者を置き、二死後、4番・砂坂晟誠の右中間へのタイムリーツーベースで先制。

しかし、2回以降は窪川・大正中のペースで試合が進み、2回裏、二死から四球、相手バッテリーのミスと安打で満塁と攻め立てると、守備の乱れと押し出しの四球で2点を奪い、逆転に成功。さらに3回裏にもこの回先頭の3番・西井遥磨、5番・西森仁海の安打と死球でつかんだ一死満塁のチャンスに7番・田邊陽大が走者一掃のタイムリースリーベースを放ち、この回3点を追加。4回裏、5回裏にも制球の乱れとバッテリーミス等で1点ずつを加え、最終的には7-2の大差をつけ、鹿児島SCを引き離し、決勝に駒を進めた。



田邊陽大のタイムリーで満塁の走者を一掃

【準決勝】 新見市立新見第一中学校(岡山) 0-8 愛媛ジュニアソフトボールクラブ(愛媛)



愛媛ジュニア・高木凱司が投打で魅せる!

後攻の愛媛ジュニアは初回、2番・日野海斗の安打、パスボール等で二死二塁のチャンスを得ると、4番・高木凱司のタイムリーツーベースで二塁走者が生還し、1点を先制。勢いに乗る愛媛ジュニアは3回裏にも2番・日野海斗、3番・藤崎玲夢の長短打で無死一・三塁とし、ワイルドピッチと5番・近藤晴希のタイムリーで2点を追加。さらに4回裏には5四球と2番・日野海斗のスライズ、7番・河野大翔の満塁の走者を一掃するタイムリースリーベース等で5点を挙げ、8-0と新見第一中を圧倒し、5回得点差コールドゲームが成立。

投げては愛媛ジュニアの「エース」高木凱司が新見第一中打線をわずか1安打に抑え、10三振を奪う好投。見事な完封で、決勝進出を決めた。

【決勝】 愛媛ジュニアソフトボールクラブ(愛媛) 6-1 四万十町立窪川・大正中学校(高知)

四国勢対決となった決勝は後攻の窪川・大正中が初回に先制。1番・木村風翔のバント安打に相手守備の乱れが絡み、無死二塁とし、次打者の犠打で一死三塁とチャンスを広げ、3番・西井遥磨のセカンドを強襲するタイムリーで先制点を挙げた。

1点を追う愛媛ジュニアは試合中盤の4回表、二死から敵失を足掛かりに6番・政田蓮人のタイムリースリーベースと7番・河野大翔のショート強襲のタイムリーで一気に逆転! 続く5回表にも、2つの四球とワイルドピッチ、盗塁等で一死二・三塁と攻め立て、3番・藤崎玲夢のレフトオーバーのタイムリースリーベースで2点、続く4番・高木凱司のセンター前タイムリーでもう1点を加え、この回3点を追加。最終回にも4番・高木凱司の犠飛でダメ押し1点を加え、6-1とリードを広げた。

その裏、窪川・大正中も懸命の反撃を試みたが無得点に終わり、ゲームセット。準決勝まですべてコールド勝ちの愛媛ジュニアが、その強さを見せつけ、創部4年目にして初優勝をつかんだ。



創部4年目の愛媛ジュニアが初の栄冠を手にした

〈準決勝〉 岸和田市立岸城中学校（大阪）0 - 1 神田女学園中学校（東京）

岸城中・山本心音、神田女学園中・高木彩葉の両エースが緊迫した投手戦を展開。

神田女学園中は初回の二死三塁、2回裏の一死二・三塁、6回裏の一死二塁と得点機をつかみながら女子U15日本代表として国際舞台で活躍した経験を有する山本心音に要所を締められ、両チームとも得点を挙げることができないまま、最終回を迎えた。

岸城中の攻撃を三者凡退に抑えた神田女学園中はその裏、「大きな壁」として立ちはだかってきた山本心音をついにとらえ、一死から7番・辻七海がセンターオーバーのスリーベースで出塁。一死三塁の「一打サヨナラ」のチャンスをつかむと、8番・須崎結がレフト前に運ぶタイムリーを放ち、三塁走者がホームイン！ 劇的なサヨナラで決勝への切符をつかんだ。



岸城中の大会3連覇は夢と消えた

〈準決勝〉 大阪イーリス（大阪）0 - 4 東海大学菅生高等学校中部（東京）

4番・吉本心渚、5番・川合瑠香が大活躍！



後攻の東海大菅生中は初回、四球、内野安打、バント安打でいきなり無死満塁の先制機をつかむと、4番・吉本心渚のレフトオーバーのタイムリーツーベースで二者が還り、2点を先制。さらに5番・川合瑠香の二遊間を抜く安打と盗塁で一死二・三塁とし、6番・北村葉琉のライトゴロの間に三塁走者が生還。この回3点を先制し、試合の主導権を握った。東海大菅生中は5回裏にも、4番・吉本心渚、5番・川合瑠香の長短打で1点を加え、4 - 0とリードを広げた。

守ってはエース・北村葉琉、伊敷彩夏とつなぐ投手リレーで大阪イーリス打線をわずか2安打、8三振と抑え込み、完封で初の決勝に駒を進めた。

〈決勝〉 神田女学園中学校（東京）0 - 4 東海大学菅生高等学校中部（東京）

決勝は神田女学園中と東海大菅生中の東京対決となった。後攻の東海大菅生中は初回、1番・原崎菜緒のレフト前ヒットに敵失が絡み、無死二塁の好機を得ると、次打者の犠打で一死三塁とチャンスを広げ、3番・関心春、4番・吉本心渚、5番・川合瑠香、6番・北村葉琉の4連続長短打で2点を先制。

さらに3回裏には、この回先頭の2番・伊敷彩夏のショート内野安打、犠打で一死二塁とし、二死後、5番・川合瑠香のライトの頭上を越えるタイムリーツーベースでまず1点。続く6番・北村葉琉の三遊間へのタイムリーでもう1点を加え、この回2点を追加。4 - 0とリードを広げ、初優勝をグッと引き寄せた。

投げては東海大菅生中の「エース」北村葉琉が尻上がりに調子を上げ、初回の一死三塁、2回表の一死二塁、3回表の二死二塁のピンチを無失点で切り抜けると、4回以降は一人の走者も許さず、神田女学園中打線を完封！ 初優勝の「立役者」となり、大会MVPにも輝いた。



東海大菅生中のエース・北村葉琉が堂々のピッチング！

男子の部

※男子の部大会結果はこちら

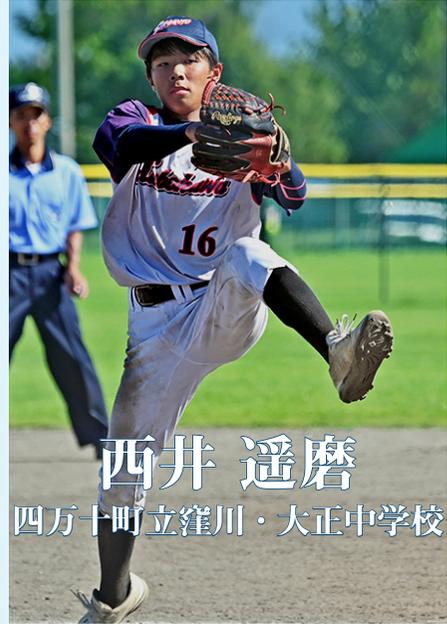
大会MVP



高木 凱司

愛媛ジュニアソフトボールクラブ

優秀選手賞



西井 遥磨

四万十町立窪川・大正中学校

女子の部

※女子の部大会結果はこちら

大会MVP



北村 葉琉

東海大学菅生高等学校中等部

優秀選手賞



高木 彩葉

神田女学園中学校

大会結果の詳細、全試合のイニングスコアは日本ソフトボール協会オフィシャルHPで

●第59回全日本大学男子選手権大会●

令和6年9月7日（土）～9日（月）富山県富山市／岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場
記録提供：富山県協会記録委員会



熱く、爽やかなプレイで魅了！

「第59回全日本大学男子選手権大会」（インカレ男子）は、今年も富山県富山市／岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場を会場に開催され、全国各プロクックの予選を勝ち抜いてきた「精鋭32チーム」が集結。男子ソフトボールの魅力・醍醐味である、スピード・パワー、そして大学生らしい、爽やかなプレイで会場に訪れた多くの人々を魅了した。

熱戦・激闘を勝ち上がり、ベスト4に名乗りを上げたのは京都産業大学（京都）、日本体育大学（東京）、同志社大学（京都）、中央大学（東京）。それぞれが「インカレ王座」をかけて、大会最終日、まず準決勝の戦いに臨んだ。

〈準決勝〉
京都産業大学 4-8 日本体育大学

日本体育大学は2回裏、四球、ヒット、盗塁等で二死二・三塁とし、敵失1番・胡京佑のタイムリーツーベースで一挙3点を先制。直後の3回表にまさかの4失点で試合をひっくり返されたものの、その裏、4番・阿部広夢のタイムリーですぐに同点。5回裏にも3番・津田龍輝のツーラン、4番・阿部広夢のソロホームランで3点を勝ち越すと、6回裏には8番・福田楓士にダメ押しソロホームランが飛び出し、終わってみれば8-4で快勝。最終的には「地力の違い」を見せつけ、順当に決勝進出を決めた。

〈準決勝〉
同志社大学 7-2 中央大学



同志社が着々と加点し、決勝へ！

同志社大学は2回表、相手守備の乱れと3番・高橋理央のタイムリー等で大量6点を先制。4回裏、5回裏と中央大学に1点ずつ返されたが、6回表にも1番・藤井大智が中前タイムリーを放ち、7点目を加え、勝利を決定的なモノとした。

〈決勝〉
日本体育大学 1-0 同志社大学

日本体育大学・新井大和、同志社大学・高橋理央、昨年（2023年）の「U18ワールドカップ優勝メンバー」で「大学屈指の好投手」とも評される両右腕が先登板。

試合が動いたのは3回表、日本体育大学は二死から同じく「U18ワールドカップ優勝メンバー」である3番・津田龍輝が四球を選び、出塁。ここで代走・渡邊佑月を送り、すかさず二盗を成功させると、4番・阿部広夢のセカンドへの当たりが内野安打となる間に二塁走者・渡邊佑月が俊足をとばして一気に生還！貴重な先制点を挙げた。投げては、まだ2年生ながら決勝の先発投手を任された新井大和がその期待通り「2安打・12奪三振」の快投。同志社大学・高橋理央との見応え抜群の投げ合いを制し、チームを3年ぶり33回目のインカレ優勝に導いた。



日体打線に「真っ向勝負」で挑んだ同志社・高橋理央



日体・新井大和も全身全霊で投げ込んだ！

大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本協会オフィシャルサイトで！



第59回全日本大学女子選手権大会

令和6年8月30日（金）～9月2日（月）※悪天候のため1日順延

愛知県安城市／安城市総合運動公園ソフトボール場・野球場

記録提供：愛知県協会記録委員会



山梨学院大学（山梨）

初の栄冠に輝く！



優秀選手
小泉杏奈（中京大学／愛知）



大会MVP
手塚心彩（山梨学院大学／山梨）

【大会概要】

標記大会は、8月30日（金）～9月2日（月）、愛知県安城市・安城市総合運動公園ソフトボール場・野球場を会場に開催された。

大会には全国各ブロックの厳しい予選を勝ち抜いた代表32チームが集い、「大学女子日本一」の座をかけ、熱戦を繰り広げた。

大会は「史上最大級」の勢力を維持したまま、日本列島に接近・上陸が予想された台風10号の影響を受けながらも初日1回戦16試合を大会会場の移動やナイター設備を使用して何とか終了。翌2日目は2回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合を実施する予定であったが、台風の影響による悪天候のため、中止・順延を余儀なくされ、3日目は中止・順延となった2回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合を実施し、予備日に準決勝2試合・決勝1試合の計3試合を行い、予定された全試合を終了することができた。

難しい判断を迫られる大会となったが、大学連の熱意、柔軟な発想と臨機応変な対応、それに全力で応えた愛知県協会、安城市協会をはじめとする安城市行政の皆さんの一致団結・総力結集の姿勢・奮闘で大会は成功裏のうちに幕を閉じた。

〈準決勝〉
中京大学 5－1 中国学園大学

「連覇」を狙う中京大学は2回表、安打、盗塁、四球等で二死一・三塁の先制機をつかみ、鮮やかなダブルスチールで先取点を奪い、試合の主導権を握ると、4回表には9番・渡辺零の適時二塁打等で2点、5回表にも代打・佐々木桃花のライト前へのタイムリー、7番・竹田愛佳のセンターへの犠牲フライで2点を追加。5－0と大きくリードを広げた。

一方、初のベスト4進出を果たした中国学園大学は最終回、死球、犠打で得点圏に走者を進め、相手守備の乱れで1点を返し、完封を免れたが反撃もここまで。快進撃を続けたチームが「王者」の威厳の前に屈し、決勝進出はならなかった。



中京大学が「連覇」に王手！

〈準決勝〉
山梨学院大学 3－0 東海学園大学



山梨学院大学が「初」の決勝へ

山梨学院大学は2回表、安打、犠打、内野ゴロで二死ながら走者を三塁まで進め、8番・長田華が意表を突くセーフティーバントを決め、先取点を挙げた。山梨学院大学は続く3回表にも、二死走者なしから3番・椋梨琳花が四球を選び出塁すると、すかさず盗塁。得点圏に走者を進め、4番・中込楓がライトオーバーのタイムリーツーベースを放ち、2点目。5回表には、四球、バント安打で無死一・二塁とし、次打者のライトフライで二塁走者がタッチアップから三塁へ進塁。一塁走者も三塁への送球間に二塁へ進み、4番・中込楓のセンターへの犠牲フライで3点目を挙げ、小刻みに得点し、着々とリードを広げた。守っては、先発・手塚心彩、兵働彩七とつなぐ継投策で東海学園大学打線を完封。決勝進出を決めた。

《決勝》
中京大学 1－3 山梨学院大学

昨年の準決勝と同じ顔合わせとなった決勝は、昨年の「リベンジ」に燃える山梨学院大学が「先手」を取った。後攻の山梨学院大学は初回、中京大学・先発の小泉杏奈の立ち上がりを攻め、二死走者なしから四球の走者を出し、すかさず盗塁。4番・中込楓が三塁を強襲するタイムリーを放ち、先取点を挙げた。勢いに乗る山梨学院大学は続く2回裏にも、相手守備の乱れに乗じて追加点のチャンスを作り、ダブルスチールと3番・椋梨琳花のタイムリーで2点を加え、序盤で3点のリードを奪った。

「連覇」を狙う中京大学も「意地」の反撃。3点を追う終盤6回表、この回から代わった兵働彩七の制球の乱れにつけ込み、連続四死球で無死一・二塁とすると、内野ゴロの間に走者を二・三塁とし、再出場した伊藤美紅のショートゴロの間に三塁走者が還り、1点を返した。2点差に詰め寄った中京大学は最終回、必死の「代打攻勢」を仕掛けたが、6回裏、無死一・二塁の場面で再出場・再登板し、ピンチを最少失点で切り抜けた山梨学院大学の「エース」手塚心彩の前に三者凡退に終わり、「連覇」は夢と消え、山梨学院大学が創部17年目にして「悲願」のインカレ制覇を成し遂げ、「初」の栄冠を手にした。



山梨学院大学が「王者」を撃破！



大会結果の詳細、準決勝・決勝のインングスコア等は[日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ](#)で！

皇后盃 第76回全日本総合女子選手権大会

令和6年9月14日（土）～16日（月・祝）滋賀県守山市・草津市・東近江市・高島市／守山市民球場 他
記録提供：滋賀県協会記録委員会



この全日本総合女子選手権は、日本女子ソフトボールの現トップリーグであるJ.D. LEAGUEをはじめ、日本リーグ、実業団、クラブ、大学の各カテゴリーが文字通り「日本の頂点」を競う「国内最高峰の大会」と位置づけられてきたが、今回の第76回大会から新たに「皇后盃」の冠を御下賜いただくこととなった（※2024年（令



全日本総合女子選手権に新たに「皇后盃」の冠が！

去る9月14日（土）～16日（月・祝）の3日間、滋賀県守山市・草津市・東近江市・高島市を舞台に「皇后盃 第76回全日本総合女子選手権大会」が開催された。

和6年）9月6日、天皇后陛下下り宮内庁を通じ、当協会・公益財団法人日本ソフトボール協会へ『天皇盃』『皇后盃』を御下賜いただきました。今後『天皇杯』を『全日本総合男子選手権大会・優勝チーム』に、『皇后盃』を『全日本総合女子選手権大会・優勝チーム』にそれぞれ授与することといたします。

初代・皇后盃の栄誉をつかむべく、熱戦を勝ち上がり、ベスト4に名乗りを上げたのは中京大学（愛知）、戸田中央メディックス埼玉（埼玉）、SGホールディングスギヤラクシースターズ（京都）、ビックカメラ高崎ビークイン（群馬）。それぞれのチームが大会最終日「日本の頂点」をかけた最終決戦に挑んだ。

〈準決勝〉

中京大学 0ー7 戸田中央メディックス

後攻の戸田中央は初回、1番・坂本結愛が「初球」を狙いすまし、サード強襲のツーベースで出塁。さらに四球内野安打でアツという間に塁上を埋めると、4番・糟谷舞乃のレフトへの犠牲フライであつさり1点を先取。その後も、エンジン全開の打線が容赦なく中京に襲い掛かり、6番・今田まな7番・武富沙耶、代打・佐藤香美、打

者一巡して1番・坂本結愛と次々にタイムリー！大量6点を奪い、早々に試合の大勢を決めてしまった。

一方、1回戦、2回戦でJ.D. L.E.A.G.U.E勢を破る金星を挙げ「初の準決勝進出」を果たした中京は戸田中央の鮮やかな先制攻撃の前になす術なく、この試合最終的に7失点。大会を盛り上げ、周囲の注目を集めた「快進撃」もついにここでストップし、決勝へ駒を進めることはできなかった。

〈準決勝〉

SGホールディングス 1ー0 ビックカメラ高崎

両チーム一歩も譲らぬ投手戦を展開。0ー0のまま迎えた5回表、SGホールディングスは前の回（4回表）二死から登板したビックカメラ高崎・上野由岐子を攻め、一死から9番・山本星が左中間を破るスリーベースで出塁。1番・望月朱里は空振り三振に倒れたが、続く2番・中川彩音が「初球」を積極的に振り抜き、二遊間を抜くタイムリー！待望の1点を先制した。

投げては、先発登板したカーヤ・バーナビーが6イニングを「圧巻」のパフォーマンスでピッチング。最終回の締めくくりはキャスリン・サンダーコックへ託し、完全試合達成とはならなかつ

たが、1ー0の完封勝ちで10年ぶりの決勝進出を決めた。

〈決勝〉

SGホールディングス 1ー2

戸田中央メディックス

「初優勝」をめざすチーム同士の対戦となった決勝は、後攻の戸田中央が準決勝に続いて初回に先制攻撃。一死から2番・鈴木鮎美がサード頭上を越えるヒットで出塁すると、二死後、4番・糟谷舞乃のライト線へ落ちるタイムリースリーベースで一気に生還。なお二死三塁から5番・サバンナ・ジェーキッシュにもセンター前タイムリーが飛び出し、幸先良く2点を先制した。守っては、先発・増田侑希が3回表に二者連続ツーベースを浴びて1点差に詰め寄られたものの、5回表からリリーフに立ったジョージナ・コリックが被安打1の好投で追加点を許さず、リードを守り抜き、2ー1で接戦に勝利！「初の頂点」へ登り詰め、栄えある「皇后盃」を手にした！！



緊迫の戦いに勝利！

大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本協会オフィシャルサイトで！





ニトリ
JD.LEAGUE

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第9節



第9節

「ニトリJD.LEAGUE 2024」は、「サマーブレイク」の中断期間を終え、後半戦再開となる**第9節**を開催。第7節・第8節に引き続き、「東地区」「西地区」のチームが対戦する「交流戦シリーズ」が9月7日（土）・8日（日）、北海道札幌市、千葉県浦安市、愛知県安城市、高知県四万十市の計4会場で開催された。

「東地区」では、前半戦終了時点で単独首位に立っていた日立が今節初戦の日本精工戦に「エース」坂本実桜のノーヒット・ノーランを達成する快投で2-0で勝利し、連勝を「13」に伸ばしたものの、続く「西地区」首位のトヨタとの対戦に1-3で敗れ、連勝ストップ。今節1勝1敗で通算成績16勝4敗と星を伸ばせず終わったが、首位の座は変わらず。これを15勝5敗で2位のビックカメラ高崎が追い、今節連敗の戸田中央が14勝6敗で3位に後退。4位には12勝8敗のホンダがつけ、上位3チームを懸命に追いかけている。以下、9勝11敗のデンソーが5位、6勝14敗で大垣ミナモ、NECプラットフォームズの両チームが同率6位に並び、今節連敗を喫した太陽誘電が4勝16敗で最下位に転落した。

「西地区」では、「王者」トヨタが後半戦再開となる今節初戦でNECプラットフォームズに1-2で敗れ、開幕から続いていた連勝が「18」でストップ。唯一「全勝」を守り続けていたチームに土がつき、波乱の後半戦の幕開けとなった。続く「東地区」首位・日立との対戦も先手を許す苦しい試合展開を強いられたが、山田柚葵のツーランホームラン、ご当地・四万十出身の下山絵理のタイムリーで3-1の逆転勝利！通算成績19勝1敗で首位を独走している。2位には、難敵・ビックカメラ高崎を倒す等、今節連勝で通算成績14勝6敗としたSGホールディングス。



今節連勝で「西地区」2位のSGホールディングス

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第9節「交流戦シリーズ」札幌ラウンド 北海道札幌市・札幌市麻生球場						
月日	試合結果					
9月7日(土)	第1試合	SGホールディングス	ギャラクシースターズ	2-1	戸田中央	メディックス埼玉
	第2試合	ビックカメラ高崎	ピークイン	7-1	シオノギ	レインボーストークス兵庫
9月8日(日)	第1試合	戸田中央	メディックス埼玉	0-4	シオノギ	レインボーストークス兵庫
	第2試合	ビックカメラ高崎	ピークイン	3-6	SGホールディングス	ギャラクシースターズ

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第9節「交流戦シリーズ」浦安ラウンド 千葉県浦安市・浦安市運動公園野球場						
月日	試合結果					
9月7日(土)	第1試合	伊予銀行	ヴェールズ	0-6	ホンダ	リヴェルタ
	第2試合	タカギ北九州	ウォーターウェーブ	3-0	大垣	ミナモ
9月8日(日)	第1試合	伊予銀行	ヴェールズ	2-3	大垣	ミナモ
	第2試合	タカギ北九州	ウォーターウェーブ	2-1	ホンダ	リヴェルタ

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第9節「交流戦シリーズ」安城ラウンド 愛知県安城市・デンソー BP スタジアム						
月日	試合結果					
9月7日(土)	第1試合	豊田自動織機	シャイニングベガ	2-1	太陽誘電	ソルフィーユ
	第2試合	デンソー	ブライトペガサス	5-0	東海理化	チェリーブロッサムズ
9月8日(日)	第1試合	東海理化	チェリーブロッサムズ	5-4	太陽誘電	ソルフィーユ
	第2試合	デンソー	ブライトペガサス	0-2	豊田自動織機	シャイニングベガ

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第8節「交流戦シリーズ」四万十ラウンド 高知県四万十市・四万十スタジアム						
月日	試合結果					
9月7日(土)	第1試合	日立	サンディーバ	2-0	日本精工	ブレイブベアリーズ
	第2試合	トヨタ	レッドテリアーズ	1-2	NECプラットフォームズ	レッドファルコンズ
9月8日(日)	第1試合	NECプラットフォームズ	レッドファルコンズ	2-6	日本精工	ブレイブベアリーズ
	第2試合	日立	サンディーバ	1-3	トヨタ	レッドテリアーズ

選手・チームのプロフィール、試合結果、全試合のLIVE配信は JD.LEAGUE 公式サイトで

<https://jdleague.jp/>

ニトリ JD.LEAGUE 2024			
東地区 第9節終了時点 順位表			
順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	日立 サンディーバ	16勝4敗	0.800
2位	ビックカメラ高崎 ビークイーン	15勝5敗	0.750
3位	戸田中央 メディックス 埼玉	14勝6敗	0.700
4位	ホンダ リヴェルタ	12勝8敗	0.600
5位	デンソー ブライトペガサス	9勝11敗	0.450
6位	大垣 ミナモ	6勝14敗	0.300
6位	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ	6勝14敗	0.300
8位	太陽誘電 ソルフィュー	4勝16敗	0.200
西地区 第9節終了時点 順位表			
順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	トヨタ レッドテリアーズ	19勝1敗	0.950
2位	SGホールディングス ギャラクシースターズ	14勝6敗	0.700
3位	シオノギ レインボーストックス兵庫	13勝7敗	0.650
4位	豊田自動織機 シャイニングベガ	12勝8敗	0.600
5位	タカギ北九州 ウォーターウェーブ	6勝14敗	0.300
6位	日本精工 ブレイブベアリーズ	5勝15敗	0.250
6位	伊予銀行 ヴェールズ	5勝15敗	0.250
8位	東海理化 チェリーブロッサムズ	4勝16敗	0.200



ニトリ
JD.LEAGUE

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第9節





【第3節】 令和6年8月31日（土）～9月2日（月）

※プラチナセクションが台風10号の影響で1日順延

- プラチナセクション：静岡県富士宮市・富士山スタジアム
- サファイアセクション：栃木県大田原市・美原公園第2球場

☆プラチナセクション☆

VONDS市原
厚木SC 同率首位！

★サファイアセクション★

MORI ALL WAVE KANOYA
大和電機工業 首位を並走

●第3節・プラチナセクション概要●

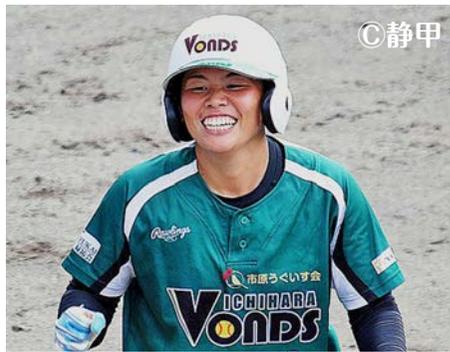
第3節「プラチナセクション」は、8月31日（土）・9月1日（日）の両日、静岡県富士宮市・富士山スタジアムで開催される予定であったが、「史上最大級」の勢力を誇る「台風10号」の接近・上陸の予報を受け、航空便の欠航、東海道新幹線の運転見合わせ、在来線や高速道路の通行止め等、日本全国で「大混乱」が巻き起こる中、大会を開催するか否か、非常に難しい判断を迫られた。

その中で、ペヤングがそのような状況を鑑み、今節への出場を断念。大会そのものも初日（8月31日/土）、2日目（9月1日/日）と2日連続で悪天候のため、中止・順延を余儀なくされ、予備日（9月2日/月）のみ、何とか試合を行うことができた。



「プラチナセクション」は台風10号の影響で予備日のみの試合となった

結果は「交流節」終了時点で「同率首位」に並んでいた3チームのうち、VONDS市原が放った6安打中5安打が長打という効果的な「長打攻撃」で静岡に打ち勝ち、6-1と圧勝。厚木SCはペヤング戦が「不戦勝」となったことで通算成績とともに7勝2敗とし、「同率首位」の座を守った。



◎静岡 VONDS市原は静岡を破り、7勝2敗で同率首位

一方、平林金属はYKKの強力打線に投手陣が打ち込まれ、1-6の大差で敗れ、手痛い3敗目。ペヤング戦は「不戦勝」で7勝3敗の3位に後退。その平林金属を破ったYKKが5勝4敗の4位、3勝6敗の静岡が5位、今節「不戦勝」の2敗が加算されたペヤングが0勝10敗の最下位となっている。

●第3節・サファイアセクション概要●

第3節「サファイアセクション」は、8月31日（土）・9月1日（日）の両日、栃木県大田原市・美原公園第2球場で開催され、台風10号の影響で振り回された「プラチナセクション」と対照的に、「奇跡的」に天候に恵まれ、予定された日程で全試合を行うことができた。

ただ……こちらも小泉病院が「史上最大級」の勢力を誇る「台風10号」の接近・上陸の予報のため、今節への出場を断念。リーグ規程により、今節2試合が「不戦勝」となってしまう。



通算成績7勝3敗で首位に並んだ大和電機工業

結果は「交流節」終了時点で5勝3敗で2位につけていた大和電機工業が花王コスメ小田原を延長タイブレークの末、2-1で振り切り、続く小泉病

院戦が「不戦勝」となったため、通算成績7勝3敗。

「交流節」終了時点で6勝2敗で「単独首位」に立っていたMORIAL WAVE KANOYAは、小泉病院戦が「不戦勝」となったものの、Citrine Ichinomiya戦を1-2で落とし、通算成績7勝3敗。大和電機工業に「同率首位」に並ばれてしまった。



MORI ALL WAVE KANOYA は3敗目…

以下、今節連勝のCitrine Ichinomiyaが6勝4敗で3位につけ、今節1勝1敗の花王コスメ小田原が5勝5敗で4位、今節「不戦勝」で2敗が加算されてしまった小泉病院が4勝6敗で5位となり、開幕から未だ勝ち星のないルネス紅葉スポーツ柔整専門学校が0勝10敗で最下位となっている。

第57回日本女子ソフトボールリーグ 第3節「プラチナセクション」			
月 日	試合結果		
8月31日(土)	第1試合	厚木SC	7-0 ペヤング
	第2試合	静甲	雨天順延 VONDS市原
	第3試合	平林金属 Peachblossoms	雨天順延 YKK
9月1日(日)	第1試合	VONDS市原	雨天順延 厚木SC
	第2試合	ペヤング	0-7 平林金属 Peachblossoms
	第3試合	静甲	雨天順延 YKK
9月2日(月)	第1試合	静甲	1-6 VONDS市原
	第2試合	平林金属 Peachblossoms	1-6 YKK

※ペヤングは台風10号の影響で第3節不参加。リーグ規程により不戦敗扱いとなった

第57回日本女子ソフトボールリーグ 第3節「サファイアセクション」			
月 日	試合結果		
8月31日(土)	第1試合	MORI ALL WAVE KANOYA	7-0 小泉病院 Blue Arrows
	第2試合	Citrine Ichinomiya	4-2 ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校
	第3試合	花王コスメ小田原 フェニックス	1-2 大和電機工業
9月1日(日)	第1試合	MORI ALL WAVE KANOYA	1-2 Citrine Ichinomiya
	第2試合	小泉病院 Blue Arrows	0-7 大和電機工業
	第3試合	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	0-1 花王コスメ小田原 フェニックス

※小泉病院 Blue Arrowsは台風10号の影響で第3節不参加。リーグ規程により不戦敗扱いとなった

※試合のスコアをクリックすると各試合のレポートがご覧になれます

©静岡県ソフトボール協会



Platinum Section

日本リーグでは幼稚園、保育所、小学校等への訪問も積極的に行っている。その子どもたちが観戦・応援に駆けつけてくれた



Sapphire Section

ソフトボールの「未来」を担う子どもたちとの「ふれあい」を大切に……様々なイベント等も企画・実行中！

第57回日本女子ソフトボールリーグ

プラチナセクション 第3節終了時点 順位表

順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	VONDS市原	7勝2敗	0.778
1位	厚木SC	7勝2敗	0.778
3位	平林金属 Peachblossoms	7勝3敗	0.700
4位	YKK	5勝4敗	0.556
5位	静 甲	3勝6敗	0.333
6位	ペヤング	0勝10敗	0.000

サファイアセクション 第3節終了時点 順位表

順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	MORI ALL WAVE KANOYA	7勝3敗	0.700
1位	大和電機工業	7勝3敗	0.700
3位	Citrine Ichinomiya	6勝4敗	0.600
4位	花王コスメ小田原 フェニックス	5勝5敗	0.500
5位	小泉病院 Blue Arrows	4勝6敗	0.400
6位	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	0勝10敗	0.000



大会結果詳細、戦績表、チーム紹介・選手プロフィール、試合スケジュール等詳細は
JSL オフィシャルウェブサイト <https://jssl-women.com/>

◎第53回日本男子リーグ第3節◎

平林金属、Honda、ダイワアクト



同率首位！

去る8月30日（金）～9月2日（月）（※台風10号の影響により、三重大会・高知大会とも当初第1日（高知大会は8月31日）に予定されていた試合を中止・順延。予備日／9月2日を使用する形となった）、三重県熊野市・高知県高知市において「第53回日本男子リーグ」第3節が開催された。

第3節では、世界ナンバーワンサウスポー・ジャック・ベスグロープを擁し、前節まで「8戦全勝」と土つかずの状態で首位を快走していたダイワアクトが大阪桃次郎戦、Honda戦を落とし、2勝2敗と「足踏み」（通算成績10勝2敗）。そのダイワアクトとの直接対決を制する等「今節3勝1敗」と勝ち越したHondaが通算成績を10勝2敗に伸ばし、「同率首位」に並びかけ、前節同様「4連勝」と勝ち星を積み上げた平林金属も通算成績10勝2敗で「同率首位」へ浮上。平林金属、Honda、ダイワアクトの3チームが首位争いを演じる展開となった。

この同率首位3チームに続くのは、「4位グループ」の高知パシフィックウェーブ（今節3勝1敗・通算成績8勝4敗）、トヨタ（今節1勝3敗・通算成績8勝4敗）、ジェイテクト（今節3勝1敗・通算成績8勝4敗）。さらに大阪桃次郎（今節2勝2敗・通算



日本男子リーグも再開！ 順位争いはさらに熱く、燃え上がる！！

成績7勝5敗」と旭化成（今節3勝1敗・通算成績7勝5敗）が「同率7位」で決勝トーナメント進出（※リーグ戦上位5チーム）争いに食らいつき、デッソー（今節2勝2敗・通算成績6勝6敗）と日本エコシステム（今節3勝1敗・通算成績6勝6敗）が「同率9位」、三重ヴェルデウイン（今節2勝2敗・通算成績5勝7敗）と埼玉県庁クラブ（今節1勝3敗・通算成績5勝7敗）が「同率11位」、山口水産（今

節2勝2敗・通算成績4勝8敗）が「13位」、豊田自動織機（今節2勝2敗・通算成績3勝9敗）と大阪・堺グロバル（今節4連敗・通算成績3勝9敗）が「同率14位」、愛媛ウエスト（今節1勝3敗・通算成績2勝10敗）が「16位」、熊本嶋田クラブ（※台風10号の影響で今節三重大会への出場を断念。リーグ規程により「4試合不戦敗」（試合スコアはすべて0-7）の取り扱いとなり、通算成績0勝12敗）

が「17位」で続く状況になっている。第2節終了時点で通算8勝0敗、単独首位に立っていたダイワアクトは、三重県熊野市/山崎運動公園くまのスタジアム・熊野市防災公園熊野スカイパーク球場において開催された三重大会に登場。初戦の熊本嶋田クラブ戦が不戦勝となったが、大阪桃次郎戦を0-3で落とし（※先登板したジャック・ベスグローブが4回表二死まで「打者12人から11三振を奪う快投」を見せていたが、次打者の小原孝太にセンター前ヒット、松本三汰にも右中間へのツーベースを許し、失点。続く5

回表にも岡崎建斗に右越ソロ本塁打、山内貴博にライト前タイムリーを浴びる等3点を失い、そのまま打線の援護なく、0-3の完封負けを喫した）、続くHondaとの対戦も初回守備の乱れで失った1点を「頼みの打線」が取り返せず、僅か1安打に抑え込まれ、0-1と2試合連続の完封負け……。今節最終戦となった三重ヴェルデウイン戦は「意地」で序盤に先制し、リードを奪い、「切り札」ジャック・ベスグローブの13奪三振の力投で3-1と勝利を取めたが、想定外の2敗を喫する形になってしまった。



ダイワアクトは「切り札」ジャック・ベスグローブを打線が援護できず…



ダイワアクトを破り、今節3勝1敗と勝ち越したHondaも同率首位へ！

ダイワアクトに土をつけたHondaは、初戦、山口水産を18安打の猛攻で10-0（6回コールド）と一蹴。三重ヴェルデウイン戦は先発・長井風雅が被安打11（被本塁打3）・13失点と炎上してしまい……7-13で敗れたが、この苦い黒星で逆に気合いを入れ直し、次戦・大阪桃次郎との対戦に船原雄大の先制スリラン、浦本大嗣のグラウンドスラム、先発・池田空生の「ノーヒット・ノーラン達成」等で9-0と完勝。最終戦のダイワアクト戦も難攻不

落のジャック・ベスグロップを積極果敢に「足」で揺さぶり、相手守備の乱れを誘って貴重な1点を先取。この1点のリードを前日に続き池田空生が被安打1・10奪三振の「安定感抜群のピッチング」で守り抜き、完封勝利で今節3勝1敗。通算成績を10勝2敗とし、単独首位を走っていたダイワアクトに同率で並んだ。

高知県高知市／高知県立春野総合運動公園において開催された高知大会では、平林金属が前節に続き「4連勝」。

今節初戦となったデンソー戦を藤井雅広のダメ押しタイムリー等で4-2とモノにすると、続くトヨタ戦も初回に八角光太郎、藤井雅広のスリランホームランで一挙6点を奪う等試合のペースをつかみ、最終的に8-5で勝利。翌日のダブルヘッダーもまず愛媛ウエストとの対戦に最終回追い詰められながら、最後、谷口将隆の「執念」のサヨナラタイムリーで9-8と辛勝。大阪・堺グローバル戦では前の試合（愛媛ウエスト戦）「6失点」と悔しい打球内容に終わった井上裕太郎が「打撃」で「奮起」！先制のスリランホームランを叩き込む等「意地」を見せ、その後も浜本悌のソロホームラン、和田彩斗のタイムリースリラーベース等着実に加点。7-1と快勝し、今節も負けなし（通算10勝2敗）で同率首位へ浮上した。

一方、前節終了時点で同率2位に付けていたトヨタは今節1勝3敗と負け越し、通算8勝4敗。逆に今節3勝1敗と勝ち越し「4位グループ」へ順位を上げた高知パシフィックウエーブ、ジェイテクトに吸収されるような形となってしまう、先の展開・結末がまったく読めない状況に。次なる最終第4節では、「決勝トーナメント進出」（※レギュラーシーズン上位5チームが決勝トーナメントへ進む権利を得る）を



今節1勝3敗と負け越し、4位グループに吸収されてしまったトヨタ

「第53回日本男子リーグ」第3節、全チームの勝敗・順位は次の通りで、リーグ戦最終節・第4節は10月5日（土）・6日（日）の両日、栃木県大田原市・熊本県水俣市において開催。今号が発行される10月10日にはその第4節も終了していることになるが（※第4節の結果・詳細は次号11月号でお伝えする）、いずれにしても全17チームの白熱の順位争いに最後まで「注目」してもらいたい。

かけたまさに「激戦・死闘」が繰り広げられることになるだろう。

◎第3節終了時点 全チーム勝敗・順位

1位	平林金属	10勝2敗
//	Honda	10勝2敗
//	ダイワアクト	10勝2敗
4位	高知パシフィックウェーブ	8勝4敗
//	トヨタ	8勝4敗
//	ジェイテクト	8勝4敗
7位	大阪桃次郎	7勝5敗
//	旭化成	7勝5敗
9位	デンソー	6勝6敗
//	日本エコシステム	6勝6敗
11位	三重ヴェルデウィン	5勝7敗
//	埼玉県庁クラブ	5勝7敗
13位	山口水産	4勝8敗
14位	豊田自動織機	3勝9敗
//	大阪・堺グローバル	3勝9敗
16位	愛媛ウエスト	2勝10敗
17位	熊本嶋田クラブ	0勝12敗

※上位5チームが決勝トーナメントに進出



◆三重大会◆

【大会第1日(8月30日)】
※台風の影響で中止・予備日に順延

【大会第2日(8月31日) 試合結果】
Honda 10-0 山口水産
三重ヴェルデウィン 7-6 埼玉県庁クラブ
山口水産 6-2 大阪桃次郎
ダイワアクト 7-0 熊本嶋田クラブ

【大会第3日(9月1日) 試合結果】
日本エコシステム 8-4 埼玉県庁クラブ
旭化成 1-0 山口水産
埼玉県庁クラブ 7-0 熊本嶋田クラブ
三重ヴェルデウィン 13-7 Honda
大阪桃次郎 3-0 ダイワアクト
旭化成 7-0 熊本嶋田クラブ
山口水産 9-4 三重ヴェルデウィン
Honda 9-0 大阪桃次郎

【予備日(9月2日) 試合結果】
Honda 1-0 ダイワアクト
大阪桃次郎 5-0 日本エコシステム
ダイワアクト 3-1 三重ヴェルデウィン
旭化成 5-1 埼玉県庁クラブ
日本エコシステム 10-0 旭化成
日本エコシステム 7-0 熊本嶋田クラブ

◆高知大会◆

【大会第1日(8月31日)】
※台風の影響で中止・予備日に順延

【大会第2日(9月1日) 試合結果】
豊田自動織機 11-5 大阪・堺グローバル
トヨタ 5-2 ジェイテクト
平林金属 4-2 デンソー
高知パシフィックウェーブ 5-1 愛媛ウエスト
ジェイテクト 3-1 デンソー
平林金属 8-5 トヨタ
高知パシフィックウェーブ 4-0 大阪・堺グローバル
愛媛ウエスト 12-11 豊田自動織機

【予備日(9月2日) 試合結果】
平林金属 9-8 愛媛ウエスト
ジェイテクト 5-0 大阪・堺グローバル
豊田自動織機 8-7 トヨタ
高知パシフィックウェーブ 2-0 トヨタ
平林金属 7-1 大阪・堺グローバル
デンソー 7-2 豊田自動織機
デンソー 3-0 高知パシフィックウェーブ
ジェイテクト 5-1 愛媛ウエスト

第3節の動画・フォトギャラリー等は
JSAオフィシャルサイトで!
www.softball.or.jp

第29回全日本レディース大会

令和 6年 8月16日（金）～19日（日） 北海道石狩市／はまなす国体記念石狩市スポーツ広場
記録提供：北海道協会記録委員会



2年連続 2回目の優勝 ケービックス（群馬）



大会MVP・松崎美南
（ケービックス／群馬）



優秀選手・林里奈
（クラブYSA／山梨）

【大会概要】

標記大会は、8月16日（金）～19日（月）の4日間、北海道石狩市・はまなす国体記念石狩市スポーツ広場を会場に開催。全国各都道府県から代表43チームが集い、熱戦を繰り広げた。

今年から大会の開催を3日間とするか、4日間とするか、開催地が選択できるようになり、このレディース大会は「4日間開催」の大会として開催され、大会初日は、1回戦11試合・2回戦5試合の計16試合を実施。2日目は2回戦11試合・3回戦5試合の計16試合、3日目に3回戦3試合・準々決勝4試合の計7試合を行い、最終日に準決勝2試合・決勝1試合を行う「ゆとり」のある大会日程となった。

酷暑にあえぐ日本列島の中にあつて「さすが」北海道、爽やかな気候の中でこの大会で選手からも「快適」「北海道最高！」の声が聞かれたが、監督会議・開会式を含めると最後まで勝ち残った場合は5日間にわたり、チームの費用負担や仕事・家庭への影響も大きくなる。その一方、大会初日に8面の試合会場が必要、審判員・記録員の人員確保・配置に悩まされることは少なくなる等の大会運営上の「利点」「メリット」もある。そこをどう考えるかが、今後の検討課題となりそうだ。

〈準決勝〉
千葉クラブ 2-3 クラブYSA（6回時間切れ）

クラブYSAは2回裏、連打と犠打で一死二・三塁と攻め立て、8番・三井陽梨、9番・高橋なぎさのタイムリーで2点を先制した。

2点を追う千葉クラブは4回表、安打、敵失で無死一・三塁の反撃機をつかみ、4番・鈴木みきのタイムリーでまず1点を返し、送球間に一塁走者が三塁まで進塁。5番・佐々木志穂がライトへ犠牲フライを打ち上げ、三塁走者を迎え入れ、2-2の同点に追いついた。

2-2の同点で迎えた6回裏、クラブYSAは四球、犠打、パスボール、四球で二死一・三塁とし、9番・高橋なぎさのショート内野安打で三塁走者が生還し、時間切れサヨナラ！ 決勝進出を決めた。



クラブYSAが劇的サヨナラ

〈準決勝〉
リトルシャイ アマダス 3-7 ケービックス



ケービックスが逆転勝利！

先攻のリトルシャイ アマダスは初回、2本の安打と敵失で一死満塁とし、5番・藤田悠芽の三遊間を抜くタイムリーと相手守備の乱れで2点を先制。続く2回表にも安打、敵失等で二死一・三塁の追加点のチャンスをつかみ、3番・和座由子巴のセンター前へのタイムリーで1点を追加し、序盤で3点のリードを奪った。

3点を追うケービックスは5回裏、7番・西里佳子の適時二塁打で1点を返し、反撃の狼煙を上げると、続く6回裏には5番・櫻井悠稀の満塁ホームラン（ランニングホームラン）を含む7本の長短打を集中し、大量6点を挙げ、一気に逆転！ 7-3の逆転勝利で「連覇」へ王手をかけた。

《決勝》
ケービックス 3-1 クラブYSA

両チームチャンスはありながら得点に結びつけることができず、0-0のまま、迎えた5回表、ケービックスは四球、犠打、バント安打、盗塁で一死二・三塁とし、4番・吉井実優がキッチリとライトへ犠牲フライを打ち上げ、待望の先取点。続く5番・櫻井悠稀にもレフトへのタイムリーが飛び出し、この回2点を先制した。ケービックスは続く6回表にも安打と相手守備の乱れ等から二死二・三塁の追加点のチャンスをつかみ、2番・高月瑞樹の内野安打の間に三塁走者が還り、大きな3点目を挙げた。

クラブYSAはその裏、二死走者なしから4番・林里奈がセンター頭上を越える豪快な一発！ 「主砲」のソロホームランで1点を返し、「反撃開始」かと思われた。

しかし、ケービックスは「エース」松崎美南が6安打され、毎回のように走者を背負いながらも「決定打」を許さず、6回までソロホームランによる1失点のみに抑え、最後は代わった松澤由芽が締め、3-1で逃げ切り、見事「連覇」を達成した。



ケービックスが連覇を達成！



第29回全日本レディースソフトボール大会

決勝戦ダイジェスト



[決勝戦ダイジェスト動画はこちらから](#)

大会結果の詳細、準決勝・決勝のインングスコア等は日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで！

第21回全日本一般男子大会

令和6年8月24日（土）～26日（月）

宮崎県宮崎市／ひなた宮崎県総合運動公園・清武運動公園多目的グラウンド

記録提供：宮崎県協会記録委員会



優秀選手・影山晴輝
(トーホードリームス/福島)



大会 MVP・森文人
(時津クラブ/長崎)

【大会概要】

標記大会は、8月24日（土）～26日（月）の3日間、宮崎県宮崎市・ひなた宮崎県総合運動公園を主会場に開催され、全国各都道府県の予選を勝ち抜いた代表48チームが集い、熱戦を展開した。

大会初日は、8会場を使用して1回戦16試合・2回戦16試合の計32試合を実施。大会2日目は4会場で3回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合を行い、3回戦で「大会3連覇」を狙う石井ウインズ（愛知）が地元・宮崎県代表の東九州フェニックスと緊迫の投手戦を演じ、延長タイブレークの末、0-1で敗れる波乱があった。

大会最終日の準決勝には、奈良ディアアール（奈良）、トーホードリームス（福島）、時津クラブ（長崎）、茨田南クラブ（大阪）の4チームが勝ち上がり、準決勝ではトーホードリームスが奈良ディアアールを3-0で破り、時津クラブが茨田南クラブに4-1で快勝。決勝進出を決めた。

決勝は「日本一」を決めるにふさわしい1点を争う好ゲームとなり、1-1の同点のまま、延長タイブレークに突入。最後は時津クラブが「紙一重」のプレイを「一瞬の差」で制し、劇的サヨナラ！ 初優勝を飾った。

〈準決勝〉 奈良ディアー 0-3 トーホードリームス（6回時間切れ）

両チーム無得点で迎えた3回裏、猛暑の中の連投で疲れの見える奈良ディアーの「エース」藤原静也をとらえ、この回先頭の9番・岩井一人の中越三塁打で無死三塁の絶好機を作り、1番・岸波洋介の二遊間を抜くタイムリーで試合の均衡を破り、パスボール、ワイルドピッチのバッテリーミス、相手守備の乱れとダスルスチール等で2点を加え、この回3点を先制した。

守っては、「エース」影山晴輝が奈良ディアー打線をわずか2安打に抑え込み、8三振を奪う力投。6回裏攻撃中に制限時間を迎え、3-0で勝利を収め、決勝進出を決めた。



トーホードリームスは3回裏岸波洋介のタイムリーで先制！

〈準決勝〉 茨田南クラス 1-4 時津クラス（6回時間切れ）



時津クラブが4-1で快勝！

後攻の時津クラスは初回、死球、盗塁で得点圏に走者を進め、相手守備の乱れに乗じて先取点を挙げた。1点をリードしたまま、迎えた5回裏には、死球、盗塁、安打等で一死一・三塁とし、鮮やかなダスルスチールを決め、2点目。さらに4番・松下和樹の二遊間を抜くタイムリーで3点目、7番・渡邊潤の適時内野安打で4点目を挙げ、勝利を決定づけた。

4点を追う茨田南クラスも制限時間間近の6回表に反撃。3安打を集中し、1点を返し、「意地」を見せてくれたが、この回の攻撃を終えたところで無念の時間切れ。時津クラスが4-1で茨田南クラスを破り、決勝に駒を進めた。

《決勝》 トーホードリームス 1-2 時津クラス

後攻の時津クラスは初回、トーホードリームスの「エース」影山晴輝の立ち上がりを攻め、一死から2番・森文人がレフトオーバーのスリーベースを放ち、出塁。二死後、4番・松下和樹が「執念」のショート内野安打を放ち、一塁へ激走！ 大事な試合の先取点をもぎ取った。

試合はこのまま、最終回を迎え、二死走者なしとなり、時津クラスの「初優勝」を誰もが確信したが、ここからトーホードリームスが驚異的な「粘り」を見せ、8番・芳賀健が左中間を破る二塁打。ワイルドピッチで走者が三塁へ進んだ後、9番・影山晴輝がセンター前にはじき返し、土壇場で1-1の同点に追いつき、自らのバットで試合を振り出しに戻し、延長タイブレークへとつれ込んだ。

延長8回表、トーホードリームスは得点なく、時津クラスがその裏、タイブレークの走者を犠打で三塁へ進めると、トーホードリームスは満塁策を選択。二者連続故意四球で歩かせ、次打者をファーストゴロに打ち取り、本塁フォースアウト。二死までこぎつけ、満塁策が成功したかに見えたが、7番・渡邊潤のショートへの当たりが内野安打となり、歓喜のサヨナラ！ 二塁走者の三塁到達と三塁手のベースカバーはまさに「一瞬の差」。明暗が分かれた。

まさに「一瞬の差」が勝負を分けた



第21回 全日本 一般男子 ソフトボール大会

2024.9.24~28
宮崎県宮崎市
ひなた宮崎県運動公園



[決勝戦ダイジェスト動画はこちらから](#)

大会結果の詳細、準決勝・決勝のインングスコア等は日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで！

開催続く全日本大会、リーグも再開



大会を支えてくださる皆さんに感謝！

7月から開催されている「全日本大会」（全国大会）が8月、9月と各カテゴリーで開催が続き、9月に入ると「ニトリJ.D.リーグ2024」、男女の日本リーグが「サマーブレイク」の中断期間を経て、再開され、「過去最大級の勢力」といわれた台風10号の襲来に振り回されながらも大会を開催した。チームの皆さんは、それぞれ「日本一」の座をめざし、あるいは「リーグチャンピオン」の座を手にするために、懸命・必死の戦いを繰り広げ、全力プレーを見せてくれたるが、その大会を支える審判員・記録員の皆さんはじめ、大会運営に携わる役員・スタッフの皆さん、大会補助員としてグラウンド整備やファウルボール拾いに奔走する学生（大学生・高校生・中学生）の皆さん等、多くの人の「想い」や「情熱」、それに支えられた献身的な働きがあるからこそ「ソフトボール」を今日も行うことができ、滞りなく大会が運営されているというのを知っていたら、ここにも「ともに戦っている仲間」がいるのだということを再認識していただけでは……と思う。

ここでは各大会の熱戦の裏側で、それを懸命に支え続けてくれている皆さんの姿を追いかけ、ごくごく一部に過ぎないかもしれないが、スポットをあて、取り上げてみたい。

第46回全国中学校男子・女子大会



第59回全日本大学男子選手権大会



第59回全日本大学女子選手権大会



第76回全日本総合女子選手権大会



ニトリ JD.LEAGUE 2024 第9節



第57回日本女子リーグ第3節



第53回日本男子リーグ第3節



第29回全日本レディース大会



第21回全日本一般男子大会



令和6年度第6回理事会議事録

審議に先立ち、本理事会は会場集合方式とインターネット会議方式（Zoomミーティング）の併用とし、出席者が一堂に会するのと同等に適時・的確な意見表明が互いに行える状態となっていることを確認。理事25名中出席22名（欠席3名）、監事出席2名（欠席1名）で定款第36条に基づき本理事会は成立することが確認された。

● 審議事項

第1号議案

JSA国際担当参事並びに9月以降のJSA事務局体制について

岡本専務理事より「国際担当参事」として三宅豊氏（前会長・現名誉会長）の就任が提案された。

また、先の常務理事会で提案された「中長期基本計画担当参事」への矢端信介氏の就任については、9月1日から「ハイパフォーマンスディレクター」に就任が決定しているが、局長不在の状態を避けるため、当面の間、矢端氏が現体制のまま、局長を兼務すること

になり、「中長期基本計画担当参事」への就任提案は取り下げられた。

ただし、「ハイパフォーマンスディレクター」「事務局長」とも要職であり、激務でもあるため、会長、副会長と相談し、できるだけ早く（1カ月を目途とする）に後任の事務局長を決定する方向で話を進めていくことが説明された。

その際、改めて参事就任の提案を行うこととし、第1号議案の「国際担当参事」就任については**承認**された。

第2号議案

LA28へ向けた人事体制について

岡本専務理事から、次のような提案がなされた。

- (1) 旧名称「National Staff Headquarter」を「Special Committee LA28」に変更することで迅速な意思決定を可能とするため。
- (2) 「LA28タスクフォースチーム」がオリンピック終了まで任務遂行上係る旅費等の費用について当法人旅費規程に基づき支給する。
- (3) 日本代表ヘッドコーチの選考に

ついて、公募条件及びスケジュールを明確化し、公表する。

以上が提案され、オリンピックでの金メダル獲得をめざし活動することの重要性は重々認識しており、賛同はするものの、予算・財務状況が厳しい中でもあり、可能な限りの経費節減、効率的・効果的な事業計画の立案・実施を求める意見が出され、そういった点に十分に配慮しつつ、慎重に事業を進めていくことが確認され、第2号議案は原案通り**承認**された。

第3号議案

倫理・コンプライアンス委員会提案事項

岡本専務理事より、京都、東京から提出されていた案件について「第3回倫理・コンプライアンス委員会」で審議した結果、「処分を行うことは相当ではない」と判断したことが説明され、**承認**された。

第4号議案

天皇盃・皇后盃下賜のスケジュールについて

期日：令和6年8月28日（水）

13：00～14：35

場所：東京都新宿区/Japan

Sport Olympic

Square及びインターネット

ト会議方式併用

理事現在数：25名

出席理事：22名

欠席理事：3名

出席監事：2名

欠席監事：1名

議長：会長 牧島かれん

岡本専務理事より、現在の状況並びに今後の予定について説明及び提案がなされた。

(1) 8月末か9月上旬に宇津木妙子副会長と岡本専務理事が宮内庁を訪問し、銀盃の下賜を受け、今年度の総合選手権開催地並びに出場チームに周知協力の要請を行う。

(2) 保管条件が厳しい場合、表彰式で優勝チームに授与した後、日本協会へ預かる措置を講じる。

以上が説明され、第4号議案は原案通り**承認**された。

現行では、総合女子選手権大会が国民スポーツ大会のリハーサル大会と位置付けられ、開催されていることが多いが、今後は男子も含め、天皇盃・皇后盃にふさわしい大会のあり方について

て、現在すでに取り組んでいる総合選手権の改革を、さらに推し進めていくことが説明・確認され、了承された。



「全日本総合」は天皇盃・皇后盃が授与される大会となった

第5号議案 各種大会における 暑熱対策について

岡本専務理事より現状「J S Aとしての指針」は定めておらず、監督会議等で水分補給や適宜休憩等の熱中症対策を呼び掛けている状況であることが説明された。

J S P O（公益財団法人日本スポーツ協会）ではW B G T（Wet Bulb Globe Temperature…暑さ指

数／湿球黒球温度）が31℃を超える場合原則として競技を中止する（ただし競技団体と事前に確認した方針によりその内容に基づき対応する）となつていくことが併せて説明された。

J S Aとしてどう対応するかについては8月9日の総務委員会で協議を行っているが、今後医事委員会や総務委員会の意見を参考に、協会としての「指針」「ガイドライン」を制定・提示していく方針が示された。

この暑熱対策については、瀬戸山総務委員長より、既に今夏の全日本大会では、気象状況や大会の種別（大会参加者の年齢や体力）等も考慮しながら原則として2・4・6回終了時（延長タイプレークに入った場合は8回にも）、3分間の給水タイムを設け、1イニングの攻撃が20分を超えた場合にも試合を止めて給水を入れる措置を取っており、大会によってはミストシャワーを導入し、効果を上げた会場地もあったことが補足説明された。

また、大会開催時期をズラすことや試合を早朝やナイターで行うことも協議・検討はしているが、特に小・中学生の大会は夏休み期間でないとなれば難しいのが実情でミストシャワーの導入等やナイターでの実施には、それ相応の予算措置や実施可能な施設が必要となることから、議論すれども根本的・画期

的な結論を導き出すことは難しい状況にあることが改めて説明された。

総務委員会では熱中症対策についての取り組み状況、今後の対策等について各ブロックに対してアンケート調査を実施しているの、その調査結果がまとまり次第、理事会に報告することが確認され、了承された。

討議の結果、第5号議案については、現行、考え得る暑熱対策を実施していくと同時に、総務委員会・医事委員会を中心に、協会としての「指針」「アウトライン」の策定を急いでいくことが確認され、**承認**された。



各種大会ですでに様々な「暑熱対策」が講じられている

第6号議案 デリバティブ内包型 「ツインスター」の 取り扱いについて

岡本専務理事より昨年度の決算時に会計士から基本財産の目減りについて指摘を受けており、デリバティブ内包型「ツインスター」は、満期になれば元本保証されるが、8月1日時点で6千400万円ほど目減りしており、利息も0.8%と高いものではないことから、無料で利用できる全銀協の紛争手続きを利用し、判断を仰ぐことが提案され、第6号議案は**承認**された。

第7号議案 スポーツマネージャーの 推薦について

岡本専務理事より「第20回アジア競技大会」に係る「スポーツマネージャー」候補者としてJ D. リーグ機構の栗山副会長が推薦され、第7号議案は原案通り**承認**された。

第8号議案 審判ルール委員会提案事項

神谷審判ルール委員長より「第1種

公認審判員認定会」の希望調査実施状況が説明され、その希望に沿って認定会を実施すること。併せて「J.D.リーグ、日本女子リーグ担当審判員」選出基準（案）並びに選考会推薦について説明され、その選出基準・推薦基準に基づき、リーグ担当審判員を選考・選出することが提案され、第8号議案は原案通り承認された。

第9号議案 謝金規程の改定について

岡本専務理事より、選手強化事業において公式国際大会に派遣するヘッドコーチ、協力員、役員の謝金改訂、国内合宿時の選手個人負担額改定、各種研修会における謝金の改定について提案され、第9号議案は原案通り承認された。

●報告事項

1. 各委員会・プロジェクト報告

【審判ルール委員会】

神谷常務理事より「オフィシャルフットボールケースブック」改訂第7版

の令和8年2月発行をめざし、取り組んでいることが報告された。

【総務委員会】

瀬戸山常務理事より小学生の投球距離変更に伴う塁間距離変更について協議し、塁間については当面現行のままとする事が報告された。

熱中症対策については第5号議案で報告した通り。

【記録委員会】

西常務理事より記録委員会の使用している記録集計ソフト「Windmi1」のバージョンアップ要望が出ており、具体的な金額等を見積り、改めて理事会に諮ることが報告された。

また、終身記録員がいったん登録するのを辞め、復帰された場合は終身記録員の資格・称号の取り扱いはどうなるのか、打順表に指導者資格保有者2名を記入する欄を追加することはできないか、といった意見が出され、記録委員会において確認・協議を行うことが了承された。

【指導者委員会】

岩崎理事より指導者登録数の減少に

ついて検討したところ、どこのカテゴリーの指導者が減っているのか漠然としているので各カテゴリーごとに数値化し、具体的に示した上で原因究明を行うっていくことが報告された。

その他、取得者数の向上や大会参加時の資格基準についても協議を行っており、コーチサミット、公認指導者養成講習会、中央研修会は本年度実施事業として日程や内容を確認し、次の委員会までに準備等進めていくことが報告された。

また、「コーチ4」養成講習会については来年度の実施に向けて内容を検討していくことが併せて報告された。

最後に、大会における指導者資格違反について確認作業を進めて行くことと、ジェンダー問題について協会として規程の策定等が必要ではないかと協議・意見交換が行われた。

【リーグ委員会】

西常務理事より来年度のリーグ日程案について、女子は特段問題なく、従来のパターンを踏襲し、男子は開催地都合で決勝トーナメントを11月8～9日に変更、第4節を3連休に開催するのが望ましいとの希望が出されていることが報告された。

また、第3節は給水タイムを2・

4・6回終了時に、第4節以降は気象条件等を確認しながら設定していくことが報告された。

その他として、第1節のみ1会場に全チームが集まって試合を行っているが、第2節以降は2会場で開催し、試合消化の都合上、3日間開催を想定しておいてもらいたいとの説明が行われた。今週末に大会を予定しており、台風接近で開催が心配されるが1試合でも2試合でも実施し、予備節にシワ寄せがないよう努力したいとの話があった。

この報告に関連し、現行1節2会場で行っているところを3会場で実施することはできないかとの要望が出された。3会場開催とすることで1会場2面ずつ実施となり、1会場2面での開催であれば大会を招致できる開催地が増えるのではないかと意見が出された。山形にできる新たな球場が男子3面の使用が可能との話もあり、そういった会場を最大限有効活用する一方、開催地の状況等を踏まえ、実現可能な方策を打ち出すべく、今後前向きに検討していくことが確認・了承された。

2. ミズノ製バットのリコー について

矢端事務局長より、この理事会の前日、ミズノから最終報告が行われ、

対象本数4717本に対し、1380本点検完了。交換品仕上がり状況については現時点で交換必要本数1112本に対し、322本が発送済み、8月末までに924本入荷予定で順次発送予定で、J.D. リーグ再開、10月の国スポまでには完了予定との報告がなされた。

検査済みのCマークが付いていても使用不可となるケースがあったこと、製造年月確認が難しいケースもあり、Cマークがないものを使用不可と判定されないかとの意見があったことが報告され、神谷審判ルール委員長と協議・相談の上、この案件に関する周知徹底を図っていくことが報告された。

3. 国際大会報告

☆第17回女子ワールドカップ ファイナルステージ報告

同大会のチームリーダーを務めた宇津木妙子副会長から大会報告が行われ、日本同様にイタリアも暑く給水タイムを3回と6回に実施していたこと、ビデオ判定が初めて採用されたこと等が報告された。

日本では試合会場の施設等の問題、予算的な問題もあり、同時に何台もカ

メラを設置するのは難しいと思うが、J.D. リーグでの導入や主要大会での導入について検討を進めていく必要があり、選手・チームもビデオ判定への対応を考慮した練習を行っておく必要があるとの報告がなされた。



女子ワールドカップの大会報告書

今回は優勝できたが、次のオリンピックへ向け、ホスト国のアメリカはじめ各国が本腰を入れた強化を図ってくるものが予想され、今回勝てたから次も……といった甘い考えは通用せず、オリンピックへ向けた強化に本格的に取り組んでいく必要性・重要性が説かれた。

また、ヘッドコーチとしてチームを率いた宇津木麗華副会長から、日本協会、各都道府県支部協会、所属企業等、チームを支えてくれたすべての皆さんに心からの謝辞が述べられ、金メダル獲得の喜びを分かち合い、3大会連続となるオリンピック金メダル獲得へ向

け、決意を新たにした。

☆第15回女子U18ワールドカップ グループステージ報告

松田常務理事より、8月7日～19日、大会直前に行われた高知での合宿、並びに中国・平潭で開催された「第15回女子U18ワールドカップグループステージ」(グループB)の大会報告が行われ、悪天候に見舞われ、最終順位決定戦は行わず、予選リーグにあたる「オープンングラウンド」の成績のみで「ファイナルステージ」進出の2チーム(1位・日本、2位・中国)を決定したことが大会途中から「5インング制」となり、試合消化を優先させたこと等が説明され、そのような状況の中でも5戦全勝の1位通過で来年の「ワールドカップファイナルステージ」の出場権を獲得したことが報告された。



女子U18日本代表がワールドカップファイナルステージ出場権を獲得！



ワールドカップ ファイナルステージ出場権獲得を果たした男子TOP日本代表

これに付随して岡本専務理事より、9月17日から男子TOP日本代表が出場する「第18回男子ワールドカップグループステージ」(グループC)がアメリカ・オクラホマシティで開催されるので、是非とも応援をお願いしたいと応援が要請された。

4. その他

▽全日本大会・4日間開催 について

佐々木理事から「全日本レディース大会」を従前の3日間開催でなく、4日間開催としたことで一日に必要な試合会場数、人員が削減でき、スムーズな大会運営ができたことが報告された。

事務局だより

第17回ワールドカップ優勝の 女子TOP日本代表チームが、 「首相官邸を表敬訪問」



女子ワールドカップ優勝・世界一の座奪還を報告

今夏（7月15日〜20日）、イタリア・カステイオンス・デイストラダを舞台に開催された「第17回女子ワールドカップ ファイナルステージ」で見事「3大会ぶり4回目の優勝」を飾った女子TOP日本代表チーム。
宇津木妙子チームリーダー、宇津木麗華ヘッドコーチをはじめとするコーチングスタッフ・代表選手16名が9月

3日（火）「首相官邸を表敬訪問」し、女子ソフトボール「世界一の座奪還」を報告した。

表敬訪問当日、女子TOP日本代表チームは東京都千代田区永田町の衆議院第一議員会館に集合。関係職員の見導のもと徒歩で隣接する首相官邸へ移動すると、その首相官邸にて岸田文雄内閣総理大臣、盛山正仁文部科学大臣、あべ俊子文部科学副大臣、林芳正内閣官房長官、森屋宏内閣官房副長官のご臨席を賜り、16時30分より表敬開始（※役職は訪問時のもの）。

まず、（公財）日本ソフトボール協会・牧島かれん会長が挨拶に立ち、今大会の「優勝・世界一」を報告。続いて女子TOP日本代表・宇津木麗華ヘッドコーチ、石川恭子キャプテンから大会における日本チームの戦いぶり、「ヘッドコーチ」「キャプテン」それぞれの立場で、ワールドカップ優勝の喜びが語られ、チームを代表して、石川恭子キャプテンより岸田文雄内閣総理大臣へ記念品（※女子TOP日本代表チームのサイン入りボール・サイン入りユニフォーム）も贈呈された。

後半の懇談では、岸田文雄総理から女子TOP日本代表チームへ「今回のチームの特徴・強みとは何ですか？」と質問が投げかけられ、石川恭子キャ

プテンが「私たちは若いチームで技術的にはまだ成長段階にありますが、選手一人ひとりが本当に『個性豊か』です。その各々の強い個性が今回ワールドカップという舞台で『王座奪還！』の合言葉のもと、うまく融合・団結できましたし、世界の強豪相手にも臆することなく『それぞれが特色を十二分に発揮して』カラフルに、美しく、光輝けたことが優勝できた一番の勝因であったと感じています」と答える場面も。

また、現・広島県ソフトボール協会会長でもあり、ソフトボールに縁がある岸田文雄総理が「この中で広島県出身の選手はいらっしゃいますか？」と問いかけ、広島出身の坂本実桜選手（※広島市立白鳥小学校↓広島市立中広中学校）、藤本麗選手（※呉市立警固屋小学校↓広島市立翠町中学校）が「笑顔」で受け答えるといった一幕も見られた。

この後も「和やかな雰囲気」の中、上野由岐子選手、後藤希友選手、宇津木麗華ヘッドコーチらが岸田文雄総理と懇談。最後に出席者全員で記念撮影が行われ、今回の女子TOP日本代表チーム「首相官邸表敬訪問」を終了した。

「第17回ワールドカップ優勝」の喜びを改めて噛みしめると同時に、この「世界一の座奪還」をさらなる成長

の糧」として。
女子TOP日本代表チームはこれからも進化し、前進し続けていく！



この喜びを、さらなる成長につなげて！